

まち
祭

前橋まちなか文化祭

前橋まちなか文化祭2016参加事業

作・演出・振付・出演

山縣太一×山賀ざくろ 演劇公演『ヤマガタヤマガ』

2016年10月23日(日)～29日(土) 紺屋町会館



僕がざくろさんとはじめて会ったのはたぶん10年以上前になるかな。僕は若くてピチピチのおしゃれボーイ。ざくろさんはすでにペタペタな女子高生の格好をして踊っていたような記憶が。よくダンスを観に行って会ったり同じイベントに参加したりといろいろ話をしたりする機会がありましたねえ。もう何年も前に「マザコンユニットお母さん」というのをやろうなどとくだなくもキラキラした会話を昨日の事のように、それはないか。思い出します。僕がよくダンス公演を観に行ってた時期によく考えたのが舞台に立つことをどう思い考え実行するのかという基本中の基本のようでダンサーがあまりやれてない事がざくろさんの身体には起きているように見えます。どれだけ自覚的に舞台に立つか。恥ずかしくて苦しくて、そんな事がそんな事を大事にするのは本当にしんどい。楽にやりたい。でもできない。偉大なパイセンのざくろさん。念願かなって初コラボ！ヨロシク



山縣太一くんはチェルフィッチュの看板俳優として、舞台の上で演じているときもバックステージで素でいるときも、いつも余裕綽々な感じで皆に笑顔をふるまいて、めちゃくちゃ自信ありそうで、そんな太一くんがわたしはちょっとうらやましかった。ここ数年会う機会がなかったのだけれど、現在彼は作・演出家としての活動もやり始めているらしく、今年6月の横浜での公演は、演劇だけどダンス作品のようでもあったとのSNSでの評判が目に入るにつけ、このタイミングで一度いっしょにやってみたくなり、彼に前橋での公演をオファーした次第だ。上演作品はホテルの話になるらしい。チェルフィッチュの国内外の公演で相当数のホテルに泊まってきただろうし、前橋では白井屋ホテルがリノベーションされて2018年にオープンするようだ。いずれにしても出不精でこれまであまりホテルに縁がなかったわたしの未知への挑戦。なのである。

主催・企画・制作 | 山賀ざくろ企画 制作協力 | オフィスマウンテン

ヤマガタヤマガ

山縣太一×山賀ざくろ 演劇公演

前橋まちなか文化祭2016参加事業

2016年10月23日(日)~29日(土)

23日(日) 19:00開演 | 24(月)~29日(土) 20:00開演

2016年10月	23	24	25	26	27	28	29
	日	月	火	水	木	金	土
19:00開演	●						
20:00開演		●	●	●	●	●	●

※小スペースでの上演ですので、ご予約の上のご来場をお薦めいたします。
※受付開始は開演時間の30分前、開場は15分前、整理番号順のご入場になります。

一般	予約 2,000円 当日 2,500円
学生 (当日身分証提示)	予約 1,000円 当日 1,500円



チケット予約フォーム

<https://coubic.com/yamagata-yamaga>

小学生以下無料

全席自由

当日精算

会場：紺屋町会館 群馬県前橋市千代田町5-1-29



お問い合わせ

E-mail: zakuro@smile.ocn.ne.jp
TEL: 090-3595-4464 (山賀)

ヤマガタヤマガ特設サイト
<http://yamagata-yamaga.tumblr.com>

◀公演情報はホームページにて更新中!

赤城山

山縣太一と山賀ざくろ、この山山コンビが
「何か、やることになったらしい。」

ありそうでなかった組み合わせである。私は彼らとほぼ同時期に、しかしれぞれ全く違った経路で出会い、それぞれに深く関わった。その思い出を少し綴ってみたい。

まず、山縣太一氏は私が『私的解剖実験』なるものを作り始めた当初にチェルフィッチュという刺激的な劇団の役者として知り合った。2002年、STスポット横浜でのことである。そして、その演劇が今までにみたことのない不思議な感覚を呼び起こすので、ぜひ一緒に何かやりましょうということになり小さなギャラリーでの二本立て公演をやることになった。それがきっかけで、私のダンス公演を太一氏は見にきてくれ、公演後に興奮して私に駆け寄りワークショップを受けたい、と言ってくれた。体を観察したり、体を使った実験をやることをはじめていたので、その延長線上で実験的な試みを太一氏の体を使ってやらせていただく、という感じで、それは始まった。例えば目をつむって、いろいろな種類の匂いを嗅いだり、触覚だけを使ってものの感覚をさぐったり、体の一部に意識を向けたりといったことをやったと思う。それから数年後、私の作品に出演してもらうことになった。自分の体をくまなく観察するようなこの作品への出演を通して、彼は今まで向き合ったことのなかったいろいろな自分に対する洞察に挑戦することになる。そしてまた、チェルフィッチュの役者としても、どのように自分を良い状態に持っていくか？ということにとってもエネルギーを注ぎ、そのために私のワークショップを受けに来ていた。そして今彼は自分で作・演出・出演をこなすようになった。私のワークショップの経験やチェルフィッチュの影響はもちろんあるだろうが、それ以上に彼自身がどのように技術を獲得していけばいいのか？そこに情熱を注ぎ続けながら思考しつづけたことが今の彼の独自の表現の獲得にいたる大きな理由であると思う。

山賀ざくろ氏との出会いは、山縣氏と同じ2002年だった。JCDN主催『踊りに行くぜ!!』前橋公演に、それぞれ自作ソロ作品の出演アーティストとして参加していて、初めて彼の作品を見たのがきっかけだった。そのときの衝撃は今でも忘れられない。等身大の男の姿というか、弱々しいまま、恥ずかしいまま、それをなんのオブラートにも包まずに舞台上に立ち、そこで揺れ動く心のままに踊り遊ぶ姿が、見ていた私の心を揺さぶってしまったのである。それから数年後、私が企画した、独自のダンス手法を持つダンサー・振付家が、それぞれの手法をお互いに交換して踊ってみる『道場破り』という企画に参加してもらった。手法といっても、実のところそれぞれが自分の手法として自覚的にそうしているというわけではないということもあり、つまり潜在的に自分自身が求めていることに対して無意識の内に身体の動きがそうになってしまうというのが大半なのである。それで、私はざくろ氏の「恥ずかしいまま舞台上に立ってしまう」ところに注目してそれをやろうと試みた。その経験もまた、私にとってはかなり強烈であった。自分がいかに、自分を「強い者」に見せかけてそういう鎧を着て舞台上に立っているかに思い至ったのである。ただし、それを見たざくろ氏は、自分はそんなに恥ずかしそうになんかしてないよ!と合点がいかないようだった。確かに、彼の表現とはかなりのズレがあったかもしれない。しかし、それにしてもあのように無防備に舞台上に立てる人はあまり見たことがない。

考えてみると、山縣太一氏と山賀ざくろ氏は、身体的に真逆とでもいい雰囲気を持っている。かたや究極的にストイックで、かたやその状況に身をまかせせるような「良い加減」の体。その違いが今回どのように関わり、そこから何が生まれるのか？これはかなり見ものである。

手塚夏子 (ダンサー・振付家)

山縣太一演劇ワークショップ | 太一メソッドを体験してみよう!

山縣太一氏が独自に考案してチェルフィッチュや自作品で応用している身体技法を体験できるワークショップです。10名限定の少人数で、太一メソッドの基礎をじっくり指導します。動きやすい服装で受講してください。演技経験は問いません。

日時 | 10月18日(火)・19日(水) 両日とも午後8時~10時
参加費 | 2,000円(2日間)
会場 | 紺屋町会館 群馬県前橋市千代田町5-1-29

申し込み・お問合わせ
zakuro@smile.ocn.ne.jp

このアドレスにメールでお申込みください。
メールには、お名前・性別・年齢・演技経験(有無・年数)・連絡先メールアドレス・電話番号をお書きください。

山

縣

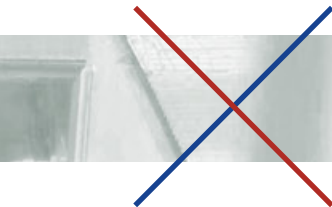
太

一



撮影協力 BONUS

1979年横浜生まれ。2001年より演劇ユニット・チェルフィッチュに俳優として参加。以降2013年の『地面と床』まではほぼ全ての作品に出演し、中心メンバーとしてチェルフィッチュを牽引。ダンサー手塚夏子の一番弟子。日常の無自覚で豊かな身体を自覚的に舞台にのせる自身が考案した太一メソッドの第一人者。作家、演出家、振付家としても高く評価されている。2015年、自身の作・演出するソロユニットを始動。同年6月に音楽家・批評家の大谷能生氏を俳優として迎え、『海底で履く靴には紐が無い』を発表。2016年6月に2作目『ドッグマンノーライフ』を上演。来年5月には新作『ホールドミーおよしよ』の公演が決定している。趣味はサッカー。ビールを飲む事。アサヒスーパードライは嫌い。アウトドアしないのにアウトドア用品を買い集める事。フィッシュマンズが大好き。



1959年前橋市生まれ。ダンサー・振付家・演出家。たまに歌も唄う。2002年、JCDN踊りに行くぜ!!で突如全国デビュー。2006年及び2008年、トヨタコレオグラフィアワード最終審査会ノミネート。2013年、アーツ前橋内覧イベント『WALK あることから はじまること』パフォーマンス総合演出、同グランドオープンのセレモニーで披露された合唱曲『カゼイロノハナ』をプロデュース(作曲等)。2015年、石坂玄士らとの『かぐらだぶらプロジェクト』の創立に参加。一步一步を確実に、マイペースな長距離ダンサー。そのいい具合に力の抜けたダンスは、老若男女、世代を問わず魅了する。近年は『伊香保アバンギャルズ』をプロデュースし、ダンスや演劇などの個性的な女性アーティストが出演する公演の企画なども行ない、地元における舞台芸術シーンに静かに揺さぶりをかけている。

山

賀

ざ

く

ろ



撮影 小熊栄

まちフェス 2016 参加の他のパフォーマンスのご案内

舞踏団トンデ空静◎前橋SIGHTプロジェクト

公演名 『パイロッツ』

日時 | 2016年10月29日(土) 19:00~20:00
10月30日(日) 19:00~20:00

会場 | 前橋市中心商店街 オリオン通り特設会場

料金 | 投げ銭おひねり(入場無料)

バレード 『セカンドライン』

日時 | 2016年10月28日14:00~
10月30日18:00~

会場 | 前橋市中心商店街 弁天通り→中央通り